

令和7年度 石神井川生物調査の概要

1 調査概要

① 調査地点及び調査実施日

河川名	調査地点名	調査実施日	天候	気温 (°C)	水温 (°C)
石神井川	①久保田橋付近	2025/7/29(火)	晴れ	33.0	25.5
	②緑橋付近	2025/7/29(火)	晴れ	34.0	29.0

② 調査方法

各調査地点において投網、タモ網(手網)及びカゴ網を用いて、魚類、底生動物を採集した。

採集した個体は、現地で種の同定、個体の計測、写真撮影を行い、現地に再放流した。現地での同定が困難な個体については、10%ホルマリンで固定して持ち帰り、実体顕微鏡下で同定した。底生動物については、肉眼でみえる個体を採集対象とした。



投網



タモ網



カゴ網

2 調査結果

① 河川状況

(1) 石神井川① 久保田橋付近

河床全面に護床ブロックが設置され、一部には植生ブロックが水制状に設置されている。植生ブロックにより小規模な瀬と淵が形成されている。

カゴ網は久保田橋下流の植生ブロック脇などやや淵状になっている2箇所を設置した。



(2) 石神井川② 緑橋付近

河道が蛇行しており、凸側に寄り州が形成されている。寄り州は砂で形成され、植生は前年度より多くなっていた。河道の一部には深みがあり、水草が繁茂する場所もあった。

カゴ網は緑橋の上流のやや淵状になっている箇所と橋下の滞留部に計2箇所設置した。



② 魚類調査結果

石神井川の2地点全体では、モツゴ、ドジョウ、ヒガシシマドジョウ及びギバチなど、2目3科4種の魚類が確認された。

出現種のうち、「環境省 RL2020」に該当する種として、絶滅危惧Ⅱ類に該当するギバチ、準絶滅危惧に該当するドジョウが確認された。

「東京都 RDB2023 区部」に該当する種として、絶滅危惧ⅠA類に該当するドジョウ、絶滅危惧Ⅱ類に該当するヒガシシマドジョウ、ギバチが確認された。

外来種については該当する種は確認されなかった。

-
- 「環境省 RL2020」:環境省版レッドリスト(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)2020年
 絶滅危惧Ⅱ類(VU):絶滅の危険が増大している種
 準絶滅危惧(NT):現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
 - 「東京都 RDB2023 区部」:東京都レッドデータブック(区部)2023年
 絶滅危惧ⅠA類(CR):ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
 絶滅危惧Ⅱ類(VU):現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
 準絶滅危惧(NT):現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの
 - 外来種
 「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」環境省に指定された種(2023)
 「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」環境省及び農林水産省に指定された種(2016)
-

魚類調査結果

No.	目名	科名	種名	石神井川		合計	環境省 RL2020	東京都 RDB2023 区部	外来種	
				① 久保田橋 付近	② 緑橋 付近					
1	コイ目	コイ科	モツゴ		1	1				
2		ドジョウ科	ドジョウ	20	18	38	NT	CR		
3	ナマズ目	ギギ科	ヒガシシマドジョウ		2	2		VU		
4			ギバチ		3	3	VU	VU		
	2目	3科	4種	種類数計	1	4	4	2	3	0
				個体数計	20	24	44			

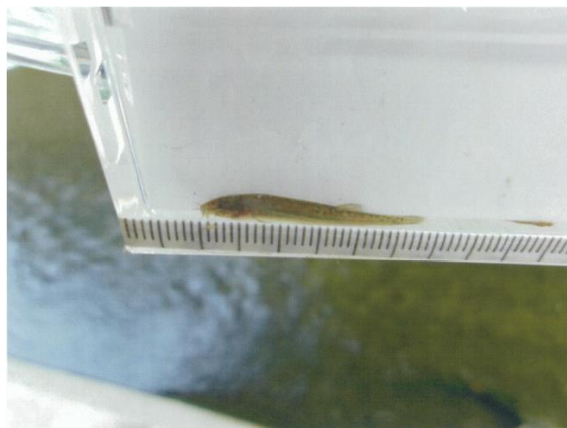
・種名及び配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 2024」に従った。

地点別魚類捕獲状況

地点	No.	種名	体長 (mm)		個体数	備考
			最大	最小		
石神井川	①久保田橋付近	1	ドジョウ	15	10	20
	②緑橋付近	1	モツゴ	21		1
		2	ドジョウ	31	9	18
		3	ヒガシシマドジョウ	30	20	2
		4	ギバチ	30	25	3



モツゴ



ドジョウ



ヒガシシマドジョウ



ギバチ

③ 底生動物調査結果

石神井川の2地点全体では、モノアラガイ属、オヨギミズ科など、5綱11目12科18種の底生動物が確認された。

出現種のうち、「環境省 RL2020」に該当する種は確認されなかった。

「東京都 RDB2023 区部」に該当する種として、留意種に該当するモクズガニが確認された。

外来種については「特定外来生物」に該当する種は確認されなかったが、「その他の総合対策外来種」に該当するフロリダマミズヨコエビが確認された。

底生動物調査結果

No.	綱名	目名	科名	種名	学名	石神井川		合計	環境省 RL2020	東京都 RDB2023 区部	外来種	
						① 久保田橋付近	② 緑橋付近					
1	腹足綱	汎有肺目	モノアラガイ科	モノアラガイ属	<i>Radix</i> sp.	8	6	14				
2	ミミズ綱	オヨギミミズ目	オヨギミミズ科	オヨギミミズ科	Lumbriculidae		1	1				
3		イトミミズ目	ミズミミズ科	エラミミズ	<i>Branchiura sowerbyi</i>	4		4				
-					ミズミミズ科	Naididae		3	3			
4	ヒル綱	吻蛭目	ヒラタビル科	ハバヒロビル	<i>Alboglossiphonia lata</i>	1		1				
5		吻無蛭目	イシビル科	シマイシビル	<i>Dina lineata</i>	4	3	7				
6	軟甲綱	ヨコエビ目	マミズヨコエビ科	フロリダマミズヨコエビ	<i>Crangonyx floridanus</i>	1		1			その他	
7		エビ目	ヌマエビ科	カワリヌマエビ属	<i>Neocaridina</i> sp.	90	46	136				
8			モクズガニ科	モクズガニ	<i>Eriocheir japonica</i>		1	1			留	
9	昆虫綱	カゲロウ目 (蜉蝣目)	コカゲロウ科	フタバカゲロウ属	<i>Gloeon</i> sp.		1	1				
10				ウスイロフトヒゲコカゲロウ	<i>Labiobaetis atrebatinus orientalis</i>		1	1				
11				ウデマガリコカゲロウ	<i>Tenuibaetis flexifemora</i>		5	5				
12		カメムシ目 (半翅目)	アメンボ科	アメンボ	<i>Aquarius paludum paludum</i>	1	1	2				
13		トビケラ目 (毛翅目)	シマトビケラ科	コガタシマトビケラ	<i>Cheumatopsyche brevilineata</i>		1	1				
14		ハエ目 (双翅目)	ユスリカ科	ナガレツヤユスリカ属	<i>Rheocricotopus</i> sp.		20	20				
15				ヒゲユスリカ属	<i>Tanytarsus</i> sp.		8	8				
16				エリユスリカ亜科	Orthoclaadiinae		1	1				
17				モンユスリカ亜科	Tanypodinae		2	2				
種類数計						7	15	18	0	1	1	
個体数計						109	100	209				

.....

○「環境省 RL2020」:環境省版レッドリスト(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)2020年

○「東京都 RDB2023 区部」:東京都レッドデータブック(区部)2023年

留意種(留):現時点では絶滅の恐れはないと判断されるが、いずれかの理由で留意が必要とされるもの(理由本文を要約)

○外来種

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」環境省に指定された種(2023)

「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」環境省及び農林水産省に指定された種(2016)

その他の総合対策外来種(その他):総合対策外来種のうち、緊急対策外来種、重点対策外来種以外の種

.....



モノアラガイ属



カワリヌマエビ属



モクズガニ



ウデマガリコカゲロウ



コガタシマトビケラ

3 調査結果のまとめ

魚類の経年変化について

石神井川久保田橋付近では、平成 20 年以前は 6 種、平成 21 年からはドジョウ、アブラハヤなど 0～6 種と確認種数は少なく、本年度の確認種は、ドジョウの 1 種であり、令和 5 年度に比べ、種類数、個体数とも減少している。

個体数については、令和 3 年度と令和 5 年度にドジョウは 2 個体しか確認されなかったが、今回は 20 個体確認された。種類については、令和 5 年度に確認されていたアブラハヤ、タモロコ、ヒガシシマドジョウ、ギバチは確認されなかった。

現地調査時の河川の状況は、久保田橋付近の環境が、一昨年から大きく変化した様子は見られないことから、これら出現種の変化については、近年多発するゲリラ豪雨等の急激な増水による影響の可能性が考えられる。

石神井川緑橋付近では、平成 20 年以前は 11 種、平成 21 年からはアブラハヤ、モツゴ、ドジョウ、ギバチなど 1～9 種が確認されている。本年度の確認種は、モツゴ、ドジョウ、ヒガシシマドジョウ、ギバチの計 4 種であり、令和 5 年度に比べ、種類数、個体数ともに減少している。本年度はドジョウ、ヒガシシマドジョウ、ギバチが令和 5 年度に続き確認されたが、アブラハヤ、タモロコ、ミナミメダカ、ヨシノボリ類は確認されなかった。しかしながら、令和 5 年に確認されなかったモツゴ 1 個体が再び確認された。

生息する種類や個体数の変動の要因としては、石神井川は両地点とも河川構造が概ね単純な 3 面張り護岸となっており、近年多発するゲリラ豪雨等の急激な増水により河道が洗われてしまうため、大半の魚類が、下流に押し流されたり、逆に上流から流されて来たりすることによるものと考えられる。したがって、今後も魚類相の変化や個体数の変動について継続して把握することが必要であると考えられる。

一般的には、久保田橋付近に設置されている植生ブロックや大小さまざまな寄り州、またはブロックのすき間、水草などは、増水などからの逃げ場となりえる環境と考えられており、現状より増加することが望まれる。